
1. 学歴

1986年 3月 国際基督教大学教養学部卒業

1993年 12月 ウィスコンシン大学マディソン校経済学部 博士課程修了, 博士号取得(Ph. D., Economics)

2. 職歴・研究歴

1990年 7月 米国, ワシントン DC 世界銀行調査局研究員

1995年 4月 横浜国立大学経済学部 助教授

2004年 4月 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

2005年 4月 一橋大学大学院国際・公共政策大学院 教授

2010年 1月 - 2014年 3月 東京大学 公共政策大学院 医療政策ユニット 特任教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

医療経済論

(b) 大学院

Fundamentals of Econometric Methods

Economic Analysis of Social Policy

Workshop on Current Topics

Issues on Public Policy III

医療経済論 II,

医療経済政策論

B. ゼミナール

学部, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部では東京医科歯科大学との連携講義で医療経済論, 2018年度からはゼミナールも担当。ゼミナールは, 経済学の考え方を学びつつ, 論理的に政策議論ができることを目標にしている。行動経済学や意思決定理論などの医療経済学への応用例, 統計を用いた分析方法も学ぶことを目標にしている。

大学院は主にアジア公共政策プログラムで統計・計量経済学, 社会政策の経済学, ゼミナールなど(英語による)を担当している。東京医科歯科大学の医療管理政策学(MMA)コースでは医療経済論を担当している。専門職大学院の教育として, 理論と現実の政策の接点に重点をおいて講義を行っている。

4. 主な研究テーマ

- (1) 不確実性下の医療に指針を与える情報と合理的意思決定の分析
- (2) 質と財政の両立を目指す保健医療制度構築に資する基盤研究
- (3) ヘルスリテラシーを高めるための情報ソースのあり方の探究
- (4) 保健医療費統計の国際比較

日本の医療制度はフリーアクセスのため、地域住民は自己責任で医療機関を選ばなければならない。医療情報は不足しており地域の保健医療提供体制もわかりにくい。住民のヘルスリテラシーも低い。単なる医療や介護給付費抑制のための研究ではない。ケアの質を高めつつ、財政に寄与する費用対効果分析の導入によって適正医療を示し、必要な時に社会保障費の負担を受け入れるべきかを地域住民が判断するためのエビデンスを提供したい。そして、これらの成果をケアの現場で生かすための人材育成、データ整備、ネットワークをはじめとする仕組みづくりを研究している。プライマリ・ケアと呼ばれるこのシステムの導入は、諸外国と比べ日本では特に遅れている。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『医療サービス需要の経済分析』井伊雅子・大日康史、日本経済新聞社、2002年

『アジアの医療保障制度』東京大学出版会、2009年

『新医療経済学』井伊雅子・五十嵐中・中村良太、日本評論社、2019年

(b) 論文(査読つき論文には*)

*"Community Perceptions and the Demand for Health Services: El Salvador,"(with Susan Kolodin) *Inter-America Development Bank Working Paper*,1994.

"Japanese Health Care Reform in the Context of a Rapidly Aging Population," *Health Sector Reform in Asia, Proceedings of a Regional Conference, Asian Development Bank, Manila, Philippines*, pp.519-529, 1995.

*"The Demand for Medical Care: Evidence from Urban Areas in Bolivia," *Living Standard Measurement Study (World Bank) Working Paper No.123*, 1996.

"Enhancing the Effectiveness of External Assistance: Social Impact of Adjustment Programs," *Proceedings for the Seminar for Deepening Structural Reforms and Policies for Growth in Africa*, Ministry of Finance of Japan, IMF and the World Bank, Paris, France. 1996.

「高齢化の経済分析」『経済分析』（八代尚宏氏、小塩隆士氏との共著）第151号、経済企画庁経済研究所、1997年。

「教育における市場と政府の役割について—3ヶ国の比較を中心に—」『市場と政府—ラテンアメリカの新たな開発枠組み』（小池洋一・西島章次編）第13章、アジア経済研究所、pp.387-426, 1997年。

「公共支出と貧困層へのターゲティング」『開発と貧困』（絵所秀樹・山崎幸治編）第4章、アジア経済研究所、pp.131-159, 1998年。

*「家計データからみた南アフリカ共和国の貧困分析—特に家庭内送金と移住行動について—」（赤林英夫氏との共著）『アジア経済』Vol.40, No.9-10, 1999, pp.165-182。

*「風邪における医療サービスと大衆医薬の代替性に関する研究—独自アンケートに基づく分析—」（大日康史氏との共著）『医療と社会』Vol.9, No.3, 1999年, pp.69-82。

*「軽医療における需要の価格弾力性の測定—疾病及び症状を考慮した推定—」（大日康史との共著）『医療経

済研究』 Vol.6, 1999 年, pp.5-17。

"Summary of Methods to Estimate Price Elasticity of Demand," *Handbook for the Economics Analysis of Health Sector Projects*, Asian Development Bank, pp.85-94, 2000 年。

「疾病ごとの医療受診と大衆医薬需要の代替性」(大日康史氏との共著)『医療サービス:市場化の論点』(瀬岡吉彦・宮本守編) 第 5 章, 東洋経済新報社, pp.75-89, 2001 年。

*「インフルエンザ予防接種の需要分析」(大日康史氏との共著)『日本公衆衛生雑誌』 Vol.48, No.1, 2001 年, pp.16-27。

「医療経済」『医学生のお勉強』(黒川清編著) 第 6 章, 芳賀出版, pp.339-429, 2002 年。

「患者負担増による医療費抑制効果」『医療白書 2002 年度版』 第 2 章, pp.17-31, 日本医療企画, 2002 年。

*"Should the Coinsurance Rate be Increased in the Case of the Common Cold? An Analysis Based on an Original Survey," (with Yasushi Ohkusa) *Journal of the Japanese and International Economies* Vol.16, No.3, 2002, pp.353- 371.

*"Price Sensitivity of the Demand for Medical Services for Minor Ailments: Econometric Estimates Using Information on Illness and Symptoms," (with Yasushi Ohkusa) *The Japanese Economic Review* Vol.53, No.2, 2002, pp.154-166.

*「わが国における女性賃金水準の就業行動への影響の分析」(縄田和満氏との共著)『日本統計学会誌』 32 巻, 第 3 号, 2002 年, pp.279-290。

*「疾病毎の医療受診と OTC 需要の代替性に関する分析」(大日康史氏との共著)『季刊・社会保障研究』 38 巻, 2 号, 2002 年, pp.157-165。

「「ゲーム理論」の導入が抜本改革への近道」『ばんぶう』 日本医療企画, pp.60-67, 2002 年。

「医療費を考える:消費者の需要行動と医療の質から」『患者のための医療』 篠原出版新社, pp.733-738, 2003 年。

*「生活習慣と主観的健康評価についての実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』 Vol.13, No.3, 2003 年, pp.45-72。

*「横浜市における救急医療の需要分析」(大重賢治氏, 縄田和満氏他との共著)『日本公衆衛生雑誌』 Vol.50, No.9, 2003 年, pp.879-889。

「社会保障」現代世界経済叢書『日本経済論』(植松忠博・小川一夫編著) 第 10 章, ミネルヴァ書房, pp.227-250, 2004 年。

*「職場の喫煙規制に関する実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』 Vol.14, No.1, 2004 年, pp.109-124。

*"Estimation of the Labor Participation and Wage Equation Model of Japanese Married Female by the Simultaneous Maximum Likelihood Method," (with Kazumitsu Nawata) *Journal of the Japanese and International Economies*, 18, 2004, pp.301-315.

*「眼科水晶体手術における在院日数の離散型比例ハザード・モデルによる分析」(縄田和満, 石黒彩, 川渕孝一氏との共著), 2006 年, 医療経済研究 Vol.18, No.1, pp.41-55。

「医療の基礎的実証分析と政策:サーベイ」(別所俊一郎氏との共著)2006 年,『フィナンシャルレビュー』 第 80 号, pp.117-156。

*"The impact of smoke-free workplace policies on smoking behaviour in Japan,"(with Ryoko Morozumi) 2006, *Applied Economics Letters* Vol.13, pp.549-555.

*「水晶体の単眼・両眼手術における在院日数の分析」(縄田和満, 石黒彩, 川渕孝一氏との共著), 『医療と

- 社会』2006年, Vol.16, No.2, pp.167-180。
- 「データに基づいた医療政策」『日本医師会雑誌』第135巻・第12号別冊, pp.35-48, 2007年。
- "History of Health Insurance Systems in Japan from Meiji to Showa: From Nothing to Universal," *Health Service and Poverty: Making Health Services More Accessible to the Poor* edited by Hiroko Uchimura, Institute of Developing Economies. 2007.
- 「医療制度改革—地方の負担の在り方を考える」『国際税制研究』2008年, No.18, pp.45-53
- 「日本の医療保険制度の歩みとその今日的課題」『医療と社会』2008年, Vol.18, No.1, pp.207-220
- 「医療統計の体系化:統計委員会の基本計画に向けて」『医療経済研究』2008年, Vol.20, No.1, pp.5-13
- *「白内障手術におけるDPCによる包括支払制度の評価」(縄田和満, 外山比南子, 高橋泰氏との共著)『医療と社会』2008年, Vol.18, No.2, pp.229-242
- "An analysis of the length of hospital stay for cataract patients in Japan using the discrete-type proportional hazard model," (with K. Nawata, A. Ishiguro, and K.Kawabuchi) *Mathematics and Computers in Simulation*. 2009, Vol. 79, 2889-2896
- "An analysis of the new medical payment system in Japan," (with K. Nawata, H.Toyama, and T. Takahashi) *Proceeding, International Congress on Modelling and Simulation, 2009(MODSIM 2009)*, 157-163
- *"Development of Social Health Insurance Systems: Retracing Japan's Experience," *MAKING HEALTH SERVICES MORE ACCESSIBLE IN DEVELOPING COUNTRIES: Finance and Resources for Functioning Health Systems*, ed. by Hiroko Uchimura, Palgrave Macmillan, 2009, pp.80-105.
- 「期待される医療統計のあり方」『病院』医学書院 2009年, Vol.68, No.2, pp.98-102。
- 「日本の医療保険制度」『経済セミナー』2009年, 4・5月号, No. 647, pp.65-71。
- 「医療政策に必要なのはデータに基づいた議論」『日本の医療は変えられる』伊藤元重・総合研究開発機構 編集, 東洋経済新報社, 2009年。
- 「医療経済学」『医療政策』入門』東京大学医療政策人材養成講座, 医学書院, 2009年 pp.97-114。
- *"Evaluation of the Inclusive Payment System Based on the Diagnosis Procedure Combination with Respect to Cataract Operations in Japan," (with K.Nawata, H.Toyama, T.Takahashi), 2009, *Health* Vol.1, No.2, pp.93-103.
- 「社会的共通資本としての統計情報」『保健医療科学』2010年, Vol. 59, No.1, pp.17-20。
- *"Facilitators and barriers in the humanization of childbirth practice in Japan," (with R. Behruzi, M. Hatem, W. Fraser, L. Goulet, C. Misago) *BMC Pregnancy and Childbirth*, 10:25 (27 May 2010)
- *「低所得世帯における社会保険と生活保護の現状に関する研究」(河口洋行との共著)『医療経済研究』2010年22(1), pp.91-108。
- *"Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously? ," (with Y. Sawada, K. Nawata, M. J. Lee) 2011, *Journal of Money, Credit, and Banking*, 43(2-3) , pp.297-324
- 「医療費の範囲と「国民医療費」」(『医療経済学講義』橋本英樹・泉田信行編 東京大学出版会, 253-273頁, 2011年。
- 「先進国の医療制度改革と日本への教訓 — オランダの家庭医療制度を中心に」『成長産業としての医療と介護—少子高齢化と財源難にどう取り組むか』八代尚宏・鈴木亘編 日本経済新聞社, 211-237頁, 2011年。
- "Challenges in Reforming the Japanese Health Care System", *The Economics of Public Health Care Reform in Advanced and Emerging Economies* , International Monetary Fund (2012).
- *「医師数, 医療機関数, 病床数, 患者数のバランスから評価した医療資源の地域格差とその推移」(関本美穂と

- の共著)『厚生指標』9月号, 2013年, 60巻, 11号, pp.1-8。
- 「高齢者に必要な医療・介護とは?——国民健康保険データ分析からの提言——」(森山美知子との共著) *ECO-FORUM* 29(2-3): pp.11-18, 2014年2月。
- 「日本の患者は幸せか?【医療経済から見たプライマリ・ケアの重要性】」『環』2014年, vol.56, pp.174-185。
- "Protecting Our Lives through Healthcare Reform" *Japan SPOTLIGHT*, Jan/Feb 2014, pp.16-19。
- 「社会保障財政における番号制の活用と課題」(吉識宗佳との共著)『病院』2014年6月, Vol.73, No.6, pp.440-444。
- 「プライマリ・ケア研究事始め — 次世代の医療制度の研究-」『ヘルスリサーチ 20年 — 良い社会に向けて—』公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団20周年記念誌, 2014年, pp.53-63。
- *"Supplier-Induced Demand for Chronic Disease Care in Japan: Multilevel Analysis of the Association between Physician Density and Physician-Patient Encounter Frequency," (with Miho Sekimoto) *Value in Health Regional Issues* 6C, 2015, pp.103-110。
- 「日本のプライマリ・ケア制度の特徴と問題点」(関本美穂との共著)『フィナンシャル・レビュー』2015年, pp.6-63。
序文「地域医療・介護の費用対効果分析に向けて」責任編集『フィナンシャル・レビュー』123号, 2015年, pp.1-5。
- 「医療サービスの質の向上と財政を両立する医療提供体制の在り方」『租税研究』2015年, 787巻, pp.17-49。
- *"Evolving Health Policy for Primary Care in the Asia Pacific Region," (with van Weel Chris, et al.) *British Journal of General Practice*, 2016 Jun, 66(647), e451-3。
- 「保健医療統計の陥穽～国際比較をめぐって～」『医療経済学会10周年記念誌 医療経済研究のこれまでとこれから』, pp.6-9, 医療経済学会, 2016年6月30日。
- 「地域医療の支払い制度: 医療は誰のためにあるのか」『医療・介護に関する研究会』報告書 財務省財務総合政策研究所, 2016年, pp.5-32。
- 「医療費の範囲と「国民医療費」」(『医療経済学講義 補訂版』橋本英樹・泉田信行編 東京大学出版会 253-274頁 2016年)。
- *「高い国民幸福度を支えるデンマークの家庭医療とは ～家庭医療先進国研修ツアー報告～」(藤原学, 山内健士朗, 葛西龍樹との共著)『日本プライマリ・ケア連合学会誌』2018 vol.41, no.2, pp.75-77。
- 「[特集1]プライマリヘルスケア40周年: 医療経済学とプライマリ・ケア」『国際保健』2018 vol.33 no.2, p.99-104。
- * "Are Japanese People Satisfied with Their Health Care System and Services? Empirical Evidence from Survey Data," (joint with Niu Bin) *Health Policy*, volume 123, issue 4, 2019, pp.345-352。
- *「ビデオレビューを積極的に取り入れたカナダでの家庭医療専門研修～家庭医療先進国研修ツアー報告」(中澤祐太郎, Maham Stanyon, 菅家智史, 葛西龍樹との共著)『日本プライマリ・ケア連合学会誌』2021 vol. 44, no.1, pp.20-22, DOI <https://doi.org/10.14442/generalist.44.20>
- 「不確実性の下での良き意思決定 適切な医療とは?」(原千秋との共著)『経済分析』第203号(特別編集号) 2021年 pp.86-120。
- 序文「過剰医療と過少医療の実態: 財政への影響」責任編集『フィナンシャル・レビュー』148号, 2022年, pp.1-4
- 「糖尿病健診における過剰と過少: 医療資源の効率利用に関する研究」(縄田和満, 葛西龍樹との共著)『フィナンシャル・レビュー』148号, 2022年 pp.5-37。
- 「ケアの現場で陥りやすい過剰・過少医療を減らすために: EBM教育と患者中心の医療の役割」(葛西龍樹との共著)『フィナンシャル・レビュー』148号, 2022年 pp.40-60。
- COVID-19 パンデミックでの患者の受療行動と医療機関の収益への影響 (森山美知子と渡辺幸子との共著)『フ

インテリジェント・レビュー』148号, 2022年 pp.133-160.

* "The paradox of the COVID-19 pandemic: The impact on patient demand in Japanese hospitals," (Joint with S. Watanabe) *Health Policy*, Volume 126, Issue 11, 2022, pp.1081-1089, ISSN 0168-8510, <https://doi.org/10.1016/j.healthpol.2022.09.005>.

日本の医療制度をどう設計するか？ 利他性を支える政府の関与 How to design the Japanese healthcare system? 『アステイオン』96, pp.74-87, 2022年5月

"Over- and Under-provision of Diabetes Screening: Making More Efficient Use of Healthcare Resources"(with K.Nawata and R.Kassai) in Ii, M. (ed), "The Reality of Over- and Under-Provision of Health Care in Japan: Financial Impacts," *Public Policy Review*, Vol. 18 No. 3, 2023, to be published.

"Reducing Over- and Under-Provision of Health Care: The Roles of Evidence-Based Medical Education and the Patient-Centered Clinical Method" (with R.Kassai) in Ii, M. (ed), "The Reality of Over- and Under-Provision of Health Care in Japan: Financial Impacts," *Public Policy Review*, Vol. 18 No. 3, 2023, to be published.

"Patient Behavior During the COVID-19 Pandemic and Impacts on Medical Institution Revenue" (with M.Moriyama and S.Watanabe) in Ii, M. (ed), "The Reality of Over- and Under-Provision of Health Care in Japan: Financial Impacts," *Public Policy Review*, Vol. 18 No. 3, 2023, to be published.

(d) その他

提言「認知症に対する学術の役割 -「共生」と「予防」に向けて-」の共同執筆 日本学術会議 認知障害に関する包括的検討委員会 2020年9月11日

「著者インタビュー フィナンシャル・レビュー「過剰医療と過少医療の実態：財政への影響」の見所」 『ファイナンス』2022年7月号 No.680 pp.60-68

<巻頭言>「コロナ対策に使われた税金はいくらなのか？」「医療と社会」Vol.32,No.4:2023年1月

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

第9回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会「家庭医療の包括的診療を反映する 診療報酬及び医療制度のあり方を探る」 三重市 2018年6月17日

*WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 Plenary Session 5 : Cost-effectiveness

How to tackle NCDs in the era of tightening budget constraints: experts opinions "Why do we need health technology assessments (HTAs)," Kyoto 2019年5月17日

*WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 Plenary Session 6 : Research Scaling-up regional comparative outcome studies on countries' health systems and primary care status "Primary health care data to support health-economics: Turning soft values in hard data," Kyoto 2019年5月17日

一橋大学・中国人民大学共催「第9回アジア政策フォーラム Creating Changes in Health and Care Systems Towards Sustainable Development in Ageing Society」 "Building Healthcare Satisfaction: How Can We Use Empirical Evidence from Survey Data?" 国立市 2019年7月2日

Asian Economic Policy Review (AEPR) Conference Comment on " Pandemic and Crimes: The Effect of Covid-19 on Criminal Behavior in Japan" 2020年10月3日 (オンライン)

* 第85回日本健康学会総会 教育講演「安心安全のための医療制度—医療経済学から考える—」 2020年12月5日 (オンライン)

WONCA European Regional Conference 2020 "Decision-making under uncertainty: results from a multisector 'think tank' exploring how to make a difference in Japan," December 17, 2020 (online)

第 13 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 メインシンポジウム2

「コロナで再認識されたプライマリ・ケアの重要性」横浜市 2022 年 6 月 11 日

(c) 国際研究プロジェクト国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

「不確実性下の医療:情報と合理的意思決定の分析」2018-2022 年度 科学研究費補助金, 基盤(B), (研究代表者:井伊雅子)

「不確実性の下での良き意思決定:適切な医療とは?」2022 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 (研究代表者:井伊雅子)

「不確実性の下での良き意思決定:適切な医療とは?」2021 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 (研究代表者:井伊雅子)

「不確実性下の健康診断:被験者の確率評価と情報仲介者の家庭医としての役割」2019 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 (研究代表者:井伊雅子)

「不確実性下の健康診断:非合理的な効用関数を持つ被験者の確率評価とその政策的含意」2018 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 (研究代表者:井伊雅子)

「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ事業のインパクト評価」(研究代表者:佐藤主光) (科学研究費, 基盤研究(A), 2018-2022 年度)研究分担者

「国民の健康づくり運動の推進に向けたNCD対策における諸外国の公衆衛生政策の状況とその成果の分析のための研究」(厚生労働科学研究費補助金, 2020-2024 年度, 厚生労働省)研究分担者

「低中所得国における医療技術評価を活用した効率的な医療資源配分の推進」(JSPS 研究拠点形成事業 B.アジア・アフリカ学術基盤形成型、2020-2023 年度)研究参加者

内閣府経済社会総合研究所 2019-2020 年度国際共同研究 超高齢社会における制度と市場の関係性の在り方に関する研究 WG 研究メンバー

(d) 研究集会オーガナイズ

第 15 回 医療経済学会 研究大会 大会長 2020 年 9 月 5 日

財務省財務総合政策研究所 機関誌『フィナンシャル・レビュー』責任編集「過剰医療と過少医療の実態とその財政への影響」2020 年 - 2021 年 論文計画報告会 オンライン 2020 年 12 月 14 日

財務省財務総合政策研究所 機関誌『フィナンシャル・レビュー』責任編集「過剰医療と過少医療の実態とその財政への影響」2020 年 - 2021 年 論文検討会議 オンライン 2021 年 12 月 14 日

6. 学内行政

(b) 学内委員会

ハラスメント対策委員会委員 (2014 年 - 現在)

HIAS Health 運営委員会委員 (2016 年 - 現在)

国際・公共政策大学院 運営委員会委員 (2018 年 - 現在)

fMRI 導入プロジェクトチーム 委員 (2022 年 - 現在)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

東京医科歯科大学医学部非常勤講師(2010年 -)

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会, International Health Economics Association, 医療経済学会

(c) 公開講座・開放講座

「プライマリ・ケアの質をどのように測るのか」(一橋大学政策フォーラム「データから見る日本の医療」2018年5月18日)

「適切な医療とは」(第451回一橋大学開放講座「人生百歳時代 医療の使い方」2019年6月18日、如水会館)

「地域住民の健康を支える制度とは」(医療科学研究所 医研シンポジウム 2019「2040年問題に備える-豊かな長寿社会を将来世代に引き継ぐ-」2019年9月13日)

「認知症・・・学術会議は何かができるか、学術会議に何を望むか」(学術フォーラム 認知症一予防と共生に向けて学術の取り組み :2020年2月14日 日本学術会議)

「COVID-19のパラドックス:患者の受療行動への影響」(一橋大学政策フォーラム「エビデンスでみるコロナ禍:ポストコロナ社会への示唆」2021年9月15日)

(e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

丸の内政経懇話会「日本の医療の質について:医療経済学の視点から」三菱クラブ 2018年4月19日

内閣官房社会保障改革担当室勉強会「プライマリ・ケアの質をどのように測るのか」2018年5月25日

日本放送協会(NHK)「学生ミーティング@NHK技研」NHK放送技術研究所 2018年9月19日

「セネガル国コミュニティ健康保険制度及び無料医療制度能力強化プロジェクト」のカウンターパート本邦研修「医療保障制度に関する能力強化」において「診療報酬の支払い制度:日本の経験、先進国の例」JICA 2019年6月14日

日本放送協会(NHK)「視聴者のみなさまと語る会 in 広島」NHK広島放送局 2019年4月13日

日本放送協会(NHK)「NHKキャンパスミーティング@名古屋大学」名古屋大学 2019年7月12日

日本放送協会(NHK)「視聴者のみなさまと語る会 in 旭川」オンライン開催 2020年9月12日

「日本の医療制度とコロナによる病院資源の逼迫問題について」日本アカデミア オンライン勉強会 2021年1月20日

「高齢化、超高齢化に向けての医療制度の在り方」JICA 講義 2021年3月2日(オンライン)

「日本の医療制度とコロナによる病院資源の逼迫問題について」大和総研理事会 2021年3月5日(オンライン)

日本放送協会(NHK)「視聴者のみなさまと語る会(前橋)」オンライン開催 2021年4月17日

「医療機関に対する新型コロナ関連補助金の『見える化』」財政制度等審議会 有識者ヒアリング 2021年10月11日

COVID-19のパラドックス:患者の受療行動への影響(2021年度国際共同研究ワークショップ「コロナ危機とポストコロナの経済社会に関する研究」) 2021年11月30日 内閣府(オンライン)

ESRI International Roundtable "Economy and Society after the Pandemic" (ポストコロナの経済・社会に関する国際ラウンドテーブル) 2021年12月17日 内閣府(オンライン)

「感染症に対する医療提供体制の現状と今後の課題」(令和3年度基盤研究会7(感染症と社会) 2022年3月1日 司法研修所)

日本放送協会(NHK)「視聴者のみなさまと語る会(東海3県・学生)」愛知県・三重県・岐阜県 オンライン開催
2022年6月2日

アステイオン vol.96トーク 2022年6月20日 サントリー文化財団

「2025年問題と医療提供体制の在り方」(令和4年度 参議院国会議員政策担当秘書研修 2022年9月2日, 参議院事務局)

「プライマリ・ケアの費用と質をどう測るか?」(日本総合研究所主催シンポジウム 「プライマリ・ケアを核とした地域医療の再構築」2022年12月8日、経団連会館国際会議場)

「次世代のヘルスリサーチを目指して」(ファイザーヘルスリサーチ振興財団設立 30周年記念シンポジウム パネルディスカッション 2022年12月17日)

「適切な政策提言のためには、統計の整備が必須」(キヤノングローバル戦略研究所(CIGS) ポストコロナの医療提供体制シンポジウム 2023年1月13日、日本工業倶楽部)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

NHK 経営委員(2015年3月 - 現在)

日本学術会議 連携会員(2014年 - 2017年, 2020年 - 現在)

東京都医療審議会 委員(2014年 - 現在)

東京都地方独立行政法人評価委員会 都立病院分科会 委員 (2021年 - 現在)

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 (2011年 - 現在)

公益財団法人みずほ交流奨学財団 選考委員 (2017年 - 現在)

財務省財務総合政策研究所 フィナンシャル・レビュー 編集審査委員(2013年 - 現在)

政府税制調査会委員(2013年 - 現在)

国立がん研究センター研究開発費 運営委員会 外部委員 (2018年 - 現在)

内閣府 EBPM アドバイザリーボード (2020年10月 - 現在)

日本専門医機構 編集会議 議員(2021年8月 - 現在)

日本学術会議 会員 (2017年7月 - 2020年9月)

経済学委員会「持続的発展のための制度設計」分科会 (幹事)

認知障害に関する包括的検討委員会 (幹事)

臨床医学委員会 腫瘍分科会

日本学術会議 連携会員 (2020年10月 - 現在)

経済学委員会「持続的発展のための制度設計」分科会 (幹事)

令和臨調委員(2022年6月~現在)

神奈川県保健医療計画推進会議 (2022年12月1日 - 現在)

東京医科歯科大学病院長候補者選考委員会委員(2022年12月1日 - 2023年3月31日)

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 審査委員 (2020年度)

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 審査委員 (2019年度)

9. 一般的言論活動

「評価対象、適用の拡大を：医療に費用対効果の視点 下」 日本経済新聞 経済教室 中村良太氏との共著
2019年6月19日

コロナ危機下の医療提供体制と医療機関の経営問題についての研究会

「医療提供体制の崩壊を 防止し、経済社会活動へ影響最小化するための6つの緊急提言」 2020年9月25日
日記者クラブ 記者会見

「コロナ対策データ基盤に：医療体制とコスト(上)」 日本経済新聞 経済教室 2020年11月23日

「医療費支払制度改革を」コロナ医療の病理 打開策を問う ⑤ 日本経済新聞 2021年5月29日

日本経済新聞特別企画 「頑張れ、ニッポンの医療」医療に問われる「連携」の道 自由度高い診療所経営「地域と一体」の視座で 2021年11月29日

「医療の質の評価に関する情報提供が重要に」特集 かかりつけ医機能が発揮される制度に向けて 『健康保険』
2023年1月号